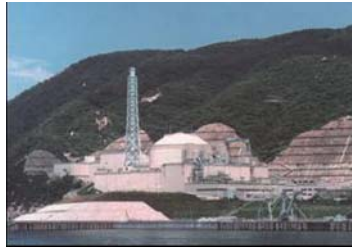


技術交流情報



平成31年3月28日

【技術成果の展開】

日本原子力学会「2019年春の年会」開催

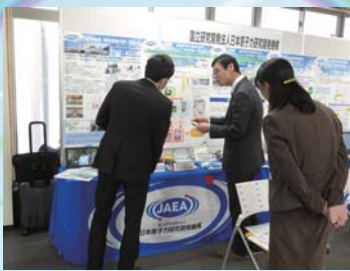
平成30年度最後の展示会として、3月20日～22日、茨城大学水戸キャンパス内で行われた、日本原子力学会「2019年春の年会」に出展しました。

原子力機構として本部・研究連携成果展開部・科学技術情報課からは、原子力図書館・FNA A(福島原子力事故関連情報アーカイブ)や成果展開事業の案内や展示物(成果物)、東海原子力科学研究所JRR-3ユーザーズオフィスによる「研究用原子炉JRR-3の中性子利用による施設利用促進」に関するパネルや映像での紹介を行いました。

敦賀総合研究開発センター レーザー・革新技術共同研究所からは、地域企業との連携制度の確立についての紹介パネルや一連の成果物の展示と、「ふくいスマートデコミッションング技術実証拠点」のPRをさせていただきました。

原子力学会ということもあり、JRR-3に興味を持たれる方が多く、中性子回折や放射化分析についての質問や要望が寄せられました。

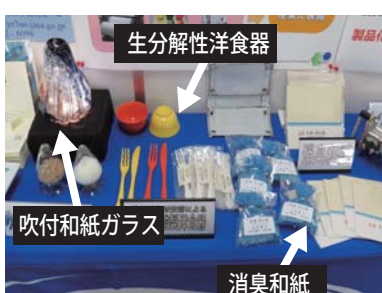
また、敦賀から出展した廃炉技術開発に向けたスマートデコミッションング利活用に向けたパネルなどにも



<展示ブースの様子>

興味を持っていただけました。技術課題解決促進事業にて地域企業との連携により生まれた製品「Na ルースパーツ回収冶具」(技術交流情報No.39 参照)について、福井県の町工場からのアイデアが素晴らしい、更なる展開を期待したいとの意見や、福井県の伝統工芸である越前和紙と機構特許の繋がりで、新しい製品が生まれている事に驚かれています。

今年度は展示会に7回出展し、多くの方々と意見交換をさせていただきました。来年度も引き続き原子力機構の技術を展示会でご紹介し、技術展開活動の継続していきます。



<展示品の一例>

【技術課題解決促進事業】技術課題解決促進事業は10年目を迎えました

2010年度にスタートした「技術課題解決促進事業」は、次年度で10年目を迎えます。今までに調査・試作検討した数は、86件にのぼります。

今年度から「**企業様から廃止措置に資する提案を募集し成立性を見極める事業**」(以下、「企業提案型」という)を新たに設け、事業を拡大しております。企業提案型は、県内企業から応募いただく原子力施設の廃止措置に関連する技術開発等の提案について、予め実用化への成立性を見極めるものです。

今年度は、従前から実施中の機構課題解決型(注1)が、7テーマ8件採択、企業提案型が、3テーマ3件採択となり、計11の県内企業のアイデアが詰まった試作品が完成しております。

なお、企業提案型は次年度の募集(2019年5月頃)に向け、提案予定の内容等について事前にご相談頂く事が可能(技術相談)ですので、アイデアをお持ちの県内企業におかれましては、当機構の技術相談窓口(0770-47-6821 又は 0770-21-5033)まで是非お問い合わせ下さい。

注1…「原子力機構が抱える技術的課題等」について、県内企業のアイデア・技術力で課題を解決するための調査・試作検討を行い、実用化への成立性を見極めを行います。